

◆ 目黒区 ◆

# 中小企業の景況

平成 25 年度第 1・四半期  
(平成 25 年 4~6 月)



# 目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 25 年 4～6 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	5
製造業	5
卸売業	9
小売業	13
サービス業	16
建設業	19
(3) 調査員のコメント	22
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 25 年 6 月）	25
4. 特別調査「中小企業における“本業”の現状と今後」について	28
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	30

## 調査の概要

1. 調査時期 平成 25 年 4 月～6 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	101	101
卸 売 業	29	28
小 売 業	59	59
サ ー ビ ス 業	62	62
建 設 業	45	45
合 計	296	295

調査実施機関 社団法人東京都信用金庫協会

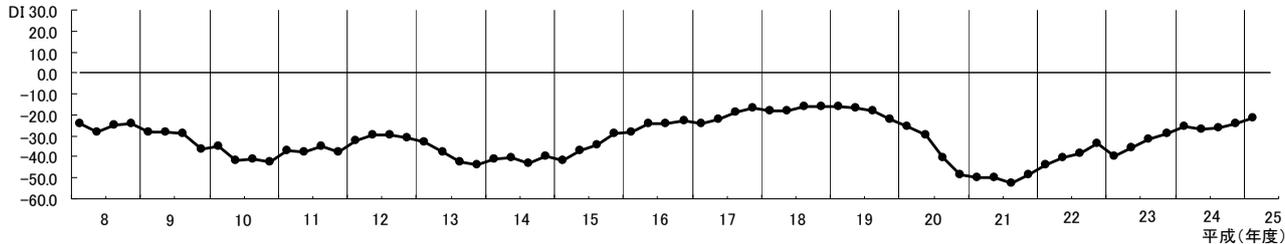
分析実施機関 株式会社帝国データバンク

# 1. 都内中小企業の景況（平成25年4～6月期）

（社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

水面下ながら全業種とも改善傾向。  
～規模の格差による二極化鮮明に～

都内中小企業景況・6業種合計 DI



業況判断 DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は△21.5（前期は△24.0）と前期に比べ 2.5 ポイント改善した。業種別に見ると、水面下ながら全業種ともやや改善した。来期も引続き全業種とも悪化幅が縮小すると予想している。

	前 期	今 期	増 減	来期予想	今期との増減
製 造 業	△ 23.8	△ 22.2	1.6	△ 18.0	4.2
卸 売 業	△ 23.6	△ 22.4	1.2	△ 17.0	5.4
小 売 業	△ 36.1	△ 33.1	3.0	△ 31.1	2.0
サ ー ビ ス 業	△ 20.9	△ 18.4	2.5	△ 13.5	4.9
建 設 業	△ 9.8	△ 7.8	2.0	△ 2.2	5.6
不 動 産 業	△ 9.5	△ 6.5	3.0	△ 4.0	2.5
総 合	△ 24.0	△ 21.5	2.5	△ 17.6	3.9

## <製造業>

業況は幾分持ち直した。売上額・収益はともに減少幅・減益幅がわずかに縮小した。受注残は前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は前期並の下降が続き、原材料価格は幾分上昇が強まった。

業種別に見ると、「電気機械」「プラスチック」「紙・紙加工品」「建設用金属」「食料品」「木材・家具」は水面下ながら大きく悪化幅が縮小した。一方、「輸送用機械」「ゴム製品」「繊維・衣服」は大きく悪化傾向が強まった。

来期の業況は厳しさが和らぐと予想している。売上額・受注残・収益はともに改善するものとみている。

## <卸売業>

業況は、水面下ながらわずかに上向いた。売上額・収益はともにやや減少幅・減益幅が縮小した。価格面では、販売価格は幾分下降傾向が改善し、仕入価格は大きく上昇幅が拡大した。

業種別では、水面下ながら「家具・建具」が非常に上向き、「食料品・飲食品」が大きく悪化幅が縮小し、「建築材料」は多少厳しさが和らいだ。一方、「機械器具」「鉱物・金属材料」は幾分低迷し、「化学製品」はかなり悪化幅が拡大した。

来期の業況は、水面下ながら厳しさが和らぐと予想している。売上額・収益はともに改善するとみている。

## <小売業>

業況は、水面下ながら若干悪化幅が縮小した。売上額・収益はともに幾分持ち直した。価格面では、販売価格は多少下降幅が縮小し、仕入価格はわずかに上昇が強まった。

業種別では、「スポーツ用品・玩具」「家具・建具・じゅう器」「飲食店」が水面下ながら大きく上向き、「飲食品」「家電・家庭用機械」「繊維・衣服・身の回り品」「カメラ、時計・眼鏡」はやや悪化幅が縮小した。一方、「医薬品・化粧品」「書籍・文具」はわずかに厳しさを増し、「木材・建築材料」「ガソリンスタンド・燃料」はかなり業況感が落ち込んだ。

来期の業況は、水面下ながら厳しさが和らぐと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するものとみている。

## <サービス業>

業況は、3期連続で厳しさが若干和らいだ。売上額・収益はともに減少幅・減益幅がわずかに縮小した。価格面では、料金価格は前期並の下降が続き、材料価格はやや上昇傾向が強まった。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」「洗濯・理容・美容」は若干悪化幅が縮小した。「自動車整備・駐車場」は多少厳しさを強めた。

来期の業況は、悪化幅が縮小するものと予想している。売上額・収益はともに持ち直すものとみている。

## <建設業>

業況は、幾分明るさが見えた。売上額・収益は多少厳しさが和らぎ、受注残・施工高はともに好転した。価格面では、請負価格は前期並の下降が続き、材料価格はやや上昇傾向を強めた。

業種別に見ると、「職別工事」「総合工事」はともに幾分明るさが見えた。「設備工事」はやや悪化幅が拡大した。

来期の業況は、水面下ながら引続き改善すると予想している。売上額は水面下を脱し、受注残・施工高は今期同様の水準で推移し、収益は減益幅が縮小するとみている。

## <不動産業>

業況は前期に引続き水面下ながら幾分改善した。売上額・収益はともに回復の兆しが見えた。価格面では、販売価格の厳しさが幾分和らいだ。仕入価格は大幅に上昇傾向が強まった。

業種別に見ると、「建売・土地売買」は好転した。「不動産代理・仲介」は水面下ながら幾分厳しさが和らいだ。

来期の業況は、厳しさが和らぐものと予想している。売上額は好転し、収益は改善するものとみている。

## [注]

ディフュージョンインデックス

○D.I (Diffusion Index) の略

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I

季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。